



こんにちは  
渡辺みのるです

1985年東村山市生まれ、29歳。恩多町在住

日本共産党

恩多町・久米川町・野口町・多摩湖町・全生園  
東村山子育て・若者応援室長

第4号(2015年1月号)

## 原発事故被災地視察に参加してきました

**原発事故は終わっていない  
民家敷地内には除染土が  
置かれたまま**

2014年11月に、原発事故の被災地福島県を視察してきました。当初は南相馬市を視察する予定でしたが、工事の影響で許可がおりず、飯館村を視察することになりました。

いまだに約12万人の方が避難生活を強いられている福島県ですが、飯館村でも約6千人の村民すべてが村外に避難しています。飯館村役場前の放射線量は毎時0.4〜0.6マイクロシーベルトと、いまだ高い数値が検出されていました。

村内のあちこちにある仮置き場には、除染作業で出た土を入れた袋があちこちに山積みされており、仮置き場のない地区では、各家庭の敷地に置かれたままになっていました。

それにもかかわらず、安倍政権はあたかも原発事故は終わったかのような対応をしている

敷地に除染土が置かれたままになっていて、飯館村の民家



ます。さらには、原発を「重要なベースロード電源」と位置づけ、再稼働を押し進めようとしています。決して許されることではありません。

地震大国日本と原発は共存できないということが、フクシマで示されました。子どもたちや孫たちの世代に、原発は残してはいけません。これが、フクシマの教訓だと私は思います。  
**いまこそエネルギーの使い方を考えるとき**

福島県の視察に参加して一番感じたことは、この原発事故を活かし、これからのエネルギー

### 自己紹介③

中学生になったころから政治に興味を持ち始めました。

新聞を読むようになり、母と政治についての話をよくするようになりました。そのころの日本国内は、小泉旋風が吹き荒れているときで、郵政民営化が国政の最大の争点になっていた時期でした。

そんな時期に、ある政治を題材にしたマンガに出会い、主人公の「納得ができないなら、自分で何とかしろ」というセリフに影響をうけ、できることなら将来政治家になりたいと思い始めました。

つづく

ーの使い方を国民全員で考えることが求められているのではないかと思います。原発事故直後の電力不足で、エネルギーの大切さに改めて気付かされました。各家庭の省エネ努力は、原発13基分に相当するともいわれていました。私たちはこれから電力も含めたエネルギーを大切につくり、大切に使う事が大事なのではないでしょうか。

ツイッター

[https://twitter.com/musashino\\_udon](https://twitter.com/musashino_udon)

フェイスブック

<http://www.facebook.com/watanabeminoru>